

学校水泳の歴史的経緯と今求められる水泳の内容

松井 敦典

国立大学法人 鳴門教育大学 大学院学校教育研究科

高度学校教育実践専攻 教科・総合系

保健体育科教育コース 特命教授

教員養成機関で 40 年ほど水泳指導の授業を担当し、学校水泳研究会を立ち上げて人間の基礎教育としての水泳のあり方を追い求めてきました。近年ではプール施設の老朽化やそれに伴う管理の困難、教員の多忙化による水泳指導への影響など、貴重な水泳学習の機会と内容が必ずしも満足されていない状況も散見されます。世界的に見て我が国の特徴である学校水泳について、今後取り扱うべき水泳の資質・能力についての考えを述べます。

1. 我が国の古来からの生活・文化と水との関わり

- ・水資源の獲得，漁労
- ・水軍の兵法→御前泳法，展示泳法
- ・精神的・宗教的な関わり，儀式
- ・湯治・入浴
- ・日本泳法の保存と近代スポーツとしての水泳

2. 溺水防止策としての水泳教育の普及

- ・嘉納治五郎による学校水泳の啓発
- ・紫雲丸事故，津集団水難事件の発生とその対策としての水泳教育
- ・経済成長と競技スポーツの発展

3. 学校教育における水泳の取り扱いとその変遷

- ・水泳の内容の変遷
- ・現在の学習指導要領にみる水泳の内容
- ・「安全確保につながる運動」，「安全を確保するための泳ぎ」の新設

4. 事故事例にみる安全管理のあり方

- ・京都市プール事故
- ・高知市プール事故
- ・最近の報道に見る水泳事故

5. 事故事例にみる水泳指導の落とし穴

- ・我が国の典型的な水泳指導
- ・我が国の水泳指導はガラパゴスか？

6. 水場での安全かつ有益な活動を保証するウォーターコンピテンシーの獲得をめざして

- ・国際調査による日本人の泳力の特徴
- ・溺れる原因とそれを解決するための技能
- ・人々が身につけるべき水場での資質・能力